

## <表彰者の功績概要>

### (1) 教職員

#### ① 垣澤 泉（伊勢市立明倫小学校 教諭）

本県公立小学校教諭として着任以来、児童や保護者からの信頼が厚く、学習指導や生徒指導の両面にわたって高い指導力を発揮している。

学習面において、特に社会科における歴史教材を活用した実践研究は、教職員はもちろん地域からも高く評価され、また、平成26年には伊勢市教育研究所発行の歴史教材「ふるさと伊勢」の作成委員を務めるなど、地域の歴史を題材にした先進的な地域学習に取り組み、市内の社会科教育の充実及び発展に貢献した。

平成27年度からは伊勢市立明倫小学校の研修主任として同市の学力向上推進事業に貢献するとともに、同校の学力向上及び研修体制の確立に尽力している。また、生徒指導面においては、本県の不登校対策事業のキーパーソンとして校内指導の充実改善及び支援体制の構築、小中学校間や地域との連携等に邁進し、魅力ある学校づくりに貢献している。

#### ② 谷本 博史（津市立成美小学校 指導教諭）

本県公立小学校教諭として着任して以来、社会科を中心に児童が自主的に発言し、学ぶ喜びを感じる授業の実践研究に取り組んでいる。

自らの授業実践及び成果を教育論文として多く発出し、また、その卓越した指導力は他の教職員や関係者から高く評価されている。

平成28年度には、本県の教職員授業力向上事業において小学校社会科の推進メンバーとして携わり、「授業改善モデル」の作成に取り組むなど本県の教育研究を牽引するとともに、教職員の指導力向上及び社会科教育の質の向上に貢献した。

現任校において、平成28年度から指導教諭として、学校の運営・企画に積極的に参画するとともに、研修のリーダーとして教職員の指導力向上及び研修体制の充実に貢献している。

#### ③ 西尾 奈緒子（菰野町立竹永小学校 教諭）

本県公立小学校教諭として着任以来、外国語活動の研究・実践に取り組み、目指す児童像・学校像の実現に向けて、高い指導力を発揮している。

平成21年度は三重郡教育研究所の研修員として、特に高学年における外国語教育の在り方について、「英語ノート」を活用した先進的な外国語活動の実践を積み重ね、地域内小学校の外国語活動を牽引した。

平成23年度には菰野小学校の研修主任として、本県の授業力向上支援事業に積極的に取り組み、児童の関わり合う姿に焦点化した先進的な授業実践は、教職員の意欲向上及び指導力向上につながり、同校内研修体制の充実や本県の外国語活動の発展と充実に貢献した。

現任校においてもその高い指導力や専門性を活かし、外国語活動における指導の工夫改善や若手教員の育成等に邁進している。

#### ④ 山中 幾代（鈴鹿市立神戸小学校 教諭）

本県公立小学校教諭として着任以来、音楽科教育を中心に研究や実践を重ね、特に、合唱や合奏等を中心とした教育実践は、児童の学習意欲を高め、児童の豊かな人間性を育み、落ち着いた学級づくりを実現させた。

鈴鹿市内の小学校音楽担当者連絡協議会及び教育研究会音楽教育班の理事や班長等を歴任し、市内の音楽科教育の発展と充実に貢献した。また、社会教育団体の金管バンドクラ

ブの指導に携わり、平成 19 年には鈴鹿市立玉垣小学校において東海地区の代表として全国大会出場を果たすなど児童の音楽技術向上及び地域の音楽振興に尽力するとともに、全国の吹奏楽指導者を対象にした吹奏楽指導の資質向上等を目的とする任意団体において企画委員を務めるなど、全国の吹奏楽文化の普及と発展に貢献している。

現任校においても、その高い専門性と指導力で児童を育成するとともに、若手教員の育成に尽力している。

#### ⑤ 大杉 栄介（名張市立名張中学校 教諭）

本県公立中学校教諭として着任以来、深い生徒理解に基づく教育活動を大切にして、各赴任校において生徒指導主事を務め、教育課題の解決に向けて校内の生徒指導体制を牽引するなど、生徒指導や授業改善に積極的に取り組んでいる。特に、本県の不登校対策事業においては、不登校の未然防止、早期発見・初期対応、自立支援対応の 3 視点から取組を推進し、本県の不登校対策の充実及び発展に貢献した。平成 28 年度には生徒指導指導者の育成中央研修に参加して、指導力向上に努め、その研修成果を各学校の生徒指導の取組の充実に生かしている。

また、理科教育において、先進的な授業の工夫改善や研究を推進し、生徒の学力向上を図るとともに、教職員の指導力向上に成果をあげており、教育活動全般に渡って積極的に取組を進めている。

#### ⑥ 長谷川 千恵子（四日市市立山手中学校 教諭）

本県公立中学校教諭として着任以来、小中学校教諭としての経験を重ね、家庭科教育を通じて、地域や保護者との連携、小中学校の連携を大切にした食育の推進に邁進している。

平成 22 年度から 2 年間、三重大学大学院教育学研究科にて家庭科教育について研修し、その後は本県における家庭科教育の地域リーダーとして本県の家庭科教育の研修講座の講師を務める等、教職員の指導力向上に貢献した。

平成 28 年度には、四日市市食育推進会議委員に教員代表として選出され、PTA や地域との連携した教育実践を推進するとともに、その実践を研修講座や本県の食育支援事業等で情報発信するなど、本県の食育推進に貢献した。

現任校においても、小中学校における食育に係る先進的な研究等を実践及び発表している。

#### ⑦ 伊藤 泰二（三重県立四日市高等学校 教諭）

本県公立高等学校教諭として奉職以来、理科教諭として、高い専門知識を活かし、本県の理科教育の発展に貢献している。特に教科指導には、卓越したものがあり、観察や実験を多く取り入れることにより生徒の自発的な関心を生み出し、学習を通じて論理的な思考力を高める授業は、生徒をはじめとして他の教職員からも高く評価されている。また、現任校では、文部科学省の「スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業」の担当として、先進的な理数教育の研究および大学や研究機関と連携した取組を進めるための校内体制づくりや教材開発など、その中心的役割を担い、同校の理科教育の充実に尽力した。さらに、同人は生物部の指導にも熱心に取り組み、その指導を受けた生徒が、日本生物学オリンピックにおいて、上位の成績を収めるなど生物学を専門的に学ぼうとする生徒の活躍の場を広げている。

⑧ 大川 景子（三重県立亀山高等学校 教諭）

本県公立高等学校教諭として奉職以来、各勤務校において家庭科教諭として教科指導力の向上に努めるとともに、生徒一人ひとりの機微を察知する優れた観察眼を持ち、授業中はもちろん、あらゆる機会においても生徒に寄り添う指導を行うことで、生徒・保護者や他の教職員から厚い信頼を得ている。特に現任校における家庭科指導では、修学旅行先で訪れる北海道におけるアイヌ民族の衣食住に関する内容を授業に取り入れ、文化的な背景を学ぶ機会を持つことで、生徒の学習への内発的な動機づけを促す取組を実施している。

また同人は、本県家庭科教育に係る各団体の運営に優れた能力を発揮し、なかでも平成27年度全国高等学校家庭科実践研究会三重大会において、主管校書記として大会運営を総括し、本県独自の魅力ある企画を実施させ、全国的にも高い評価を得る大会として成功に導いた。

⑨ 谷崎 正純（三重県立かがやき特別支援学校 教諭）

本県公立特別支援学校中学部教諭として奉職し、特別な支援が必要な生徒に対し、高い専門性を持って個々に応じた的確な指導や支援を行ってきた。特に三重県立特別支援学校玉城わかば学園においては、平成24年度より2年間、「特別支援教育コーディネーター」を務め、療育や学校生活に関わる相談を精力的に行った。平成29年度より現任校において、県内唯一の「教育ケースマネージャー」として、入退院する児童生徒やその保護者に対して、治療計画と連動した教育支援に関する相談業務を担当している。また、個々の特別支援学校では対応困難な事案については、同人が窓口となり対応を行っている。加えて同人は、各特別支援学校に設置されている「特別支援教育コーディネーター」への助言や情報提供を行うリーダー的な立場にあり、県内特別支援教育の発展に尽力している。

⑩ 青柳 隆（海星高等学校 教諭）

毎年100名を超えるサッカー部員を4チームに分け、それぞれの練習メニューおよび試合日程を組み、各人に目を配り、部員である生徒のやる気を常に喚起し、全体の育成に努めている。

このような指導・育成を通して平成28年度の全国高校サッカー選手権大会に三重県代表として初出場を果たすと共に、インターハイにも三重県代表として3回出場を果たしている。

そのような指導が県内の中学校においても高い評価を得、毎年、中学校のサッカー部顧問を中心に多くの入学者を送っていただいている。また、体育科主任として、教科全体を取りまとめ、後輩教員の育成にも努めている。

さらに、クラス担任を十数年継続して勤め上げ、多くの卒業生の進路保障にも貢献してきた。